

本多 謙 様

いつも「断想だより」をありがとうございます。

先日『かみさま』と呼ばれた男。宮之原右近の最後』をお送り下さいまして本当にありがとうございました。拝読いたしました。右近さんのことはとても気になっていた情報でした。貴重な資料ですね。

私は、1984年にフィリピンのミンダナオ島へ行き、まずセブワノ（セブ語）を5ヶ月間学びました。1985年にミンダナオ島のUCCP（フィリピン合同教会）（日本キリスト教団はUCCJです）で2年間信徒宣教師としてビショップ（日本では教区議長に該当するでしょうか、専従です）のオフィスのキリスト教教育部でお手伝いしました。

南部にあるジェネラルサントス市で牧師会が開催された時、教会の宿舎でモデレーター（地区の代表牧師）の夫人（牧師）と一緒に部屋でした。彼女の名前は忘れましたが当時57、8歳で恰幅の良い、明るく美人で肌白でした。私が日本人と知り思い出話をしました。「私が若い頃（17、8歳と思います）スリガオ教会で教会学校を担当していました。その時日本兵の青年と出会いました。とても短い期間でしたが教会学校の教師と一緒にしました。彼の名前を忘れましたがオルガンがとても上手で教会学校の礼拝オルガンの係りでした。とてもきれいな声で讚美歌を歌いました。子供達に聖書の話をするときはとても熱心でした。流暢な英語でした。いつも聖書を腕にかかえていました。ある日突然姿を消しました。彼は優しくとても素敵な人でした。ハンサムで紳士でした。私は好きでした。私の初恋の人です。今でも彼を愛しています。でも親しく会話をしたことは殆んどありませんでした。教会学校が始まると風のように静かに入って来て、礼拝が終わるとすぐ帰りました。」と。一緒にいた数日間、繰り返し同じ話を聞きましたので内容を良く記憶しています。彼女は「日本兵の中で英語を自由にしゃべれた人は彼だけでした」とも。

私はこの話をずっと経って私の母に話しました。母は「宮之原 右近さんでないかしら。ミンダナオ島で死んだと聞いている。オルガンも上手に弾けるし歌声もとても良かった。『いつでも聖書をかかえていた』では！右近さんは神学部を卒業して

いるし、そんな人はめったに他にはいないわよね。」母は青山で右近さんと一緒に良キメサイヤを歌っていたので良く知っていると申ししていました。母は1940年代に八戸市柏崎教会で牧会しておられた宮之原先生とまり夫人の下で婦人伝道師として働きました。

いただいた小冊子を見ると右近さんはミンダナオ島の北東にあるスリガオ市にも足を運んでいます。

飢えと闘いながらマラリヤと赤痢を患い衰弱していながら北海道の2/3くらいある面積の地を歩きまわっていたのでしょう。歩く道は森林の中、はえ、虫、蚊、蟻、蛇がいて、現地の人々と日本人は体臭が違うので集中的に攻撃されます。想像に絶する過酷な状況だったことでしょう。現地の人々もその様子を良く知っていて話していました。「日本兵のそれは惨めなものでした。好きで望んで他国へ戦争に来ているのではないことを充分知って言います。私達は日本の侵略により拷問され大勢殺害され酷い戦争を強いられ惨めでしたが、被害者の我々ばかりでなく加害者の日本兵も惨めで、苦しんでいたことも良く知っています。」又、「戦争をしていない時には日本兵は森の中に居て野菜を植え育てていました。善良な人達でした。兵隊達は日本料理をつくり、私達はフィリピン料理と交換し、親しく仲良くしていました。兵隊達にも家族があり、祖国には子供、弟、妹がいて懐かしく思っているのでしょう。日本人は手先が器用で上手に玩具をつくり子供達を可愛がり一緒に遊んでくれていました。とても優しい人たちでした。戦争が開始すると知らない内に姿が消え、しばらくして姿を現した時には全くの別人で残忍な人間に豹変していました。それは隊長に従わないと殺されるからでしょう！隊長はその上の上司に、上司は天皇を恐れていたのでしょう。天皇ヒロヒトの命令が絶対なのでしょう。天皇は大企業の操り人形で、天皇を気の毒だと思っています。大企業が地下資源を求めて戦争をしているのです。」「日本兵を見ていて悪い人たちだとは思いませんでした。皆、良い人たちでした。我々フィリピン人は日本国民を憎んでいません。我々にしたあらゆる残虐行為は許すことができます。許します。でも決して忘れません。戦争が人間性を変えます。戦争が悪いのです。二度と戦争しないでください。そのことを日本人に伝えて下さいと。」と。

私が信徒宣教師としてミンダナオ島のあちこちの教会を訪問し、村人たちから聞いたことばです。

今回この小冊子を読み、より一層右近さんを身近に感じました。このような青年達が戦場へ行ったのだということを知り胸が痛みました。今、日本政府は軍拡し憲法9条を改憲しようとしています。日本は二度と戦争したり、他国の戦争に参加したりしてはいけません。軍備をする必要もありません。アフガニスタンで銃殺され死亡した中村 哲医師は「9条がしっかり守られていることで<sup>世界</sup>海外の国々は日本を信頼し、安全を保障します。海外で働く私達のようなワーカーも安全に仕事ができます。」とおっしゃっていました。私も同感です。私もミンダナオ島の内戦の中で行きぬいてきました。

右近さんはまだ生きていて私たちに重要なメッセージを伝えているのですね、右近さんの死を無駄にしないことは私達の責任です。

お礼の返事が遅くなってごめんなさい。

奥様、息子さんにくれぐれもよろしくお伝え下さい。

どうぞお元気で。

私と妹は少しずつ元気になってきております。

穂積 夏子

2024.5.3